

「在ること」への感謝

大阪市立淡路中学校 3年 佐野 明莉

父の故郷の広島県呉市には黒瀬川にかかる「真光寺橋」があります。真光寺橋は長さ百メートル、幅三メートル程の木製の橋で江戸期から残っているそうです。私は毎年のお盆の時期にお墓参りで真光寺橋を渡ることを楽しみにしていました。真光寺橋を渡り始めると、目の前には緑一色の山々がそびえ立ち、辺り一面に大きな蝉の音が聞こえます。そして橋の上で黒瀬川からの風を体全体で受けながら水辺で羽を休めている様々な鳥を観ることが出来ます。私は真光寺橋の上で夏の音と川の風を受けながら色鮮やかな景色を感じる時間が大好きでした。

しかし、三年前の平成三十年七月豪雨で黒瀬川が増水し、真光寺橋が流されてしまいました。当時のテレビ中継で真光寺橋が流される映像を観た私は自然の猛威と橋を失ったショックで声が出ませんでした。横で一緒に中継を観ていた父も悲しそうでした。私は父に「すぐに建て直されるよね？」と尋ねましたが、父は「すぐに建て直すとは限らない。建て直しには税金が使われるよね？大切な橋に使って欲しいからこそ、税金の仕組みについて調べてみなさい。」の答えでした。私は賛同されなかった怒りを覚えながら税金の仕組みについて調べ始めました。驚いたのは使い道の多さでした。市役所・警察・消防・救急・道路・橋・公園など安心安全な地域を維持するための費用、医療費・ゴミ収集など健康的な生活のための費用、学校教育・科学技術など文化の維持発展のための費用、そしてそこで働く職員のお給料…。使い道を一つ一つ書いた紙はビッシリと埋まりました。そして調べていく途中で少子高齢化による社会保障負担の増大も大きな問題であることも知りました。

税金の仕組みを知ることで、税金が有限であること、そして税金の使い道である社会や地域の課題はたくさんあることを知りました。「これまで在ったものだから」と簡単に考えるのではなく、社会や地域全体を見た上で必要性をしっかりと考え、自分の意見を出すことが大切と気付きました。私はその後、真光寺橋や地域のことを調べて建て直しの必要性を父に話しました。父も「立派な意見になったね」と言ってくれました。

今年、真光寺橋が建て直されると父が教えてくれました。私は思わず「ありがとうございます。」と言いました。納税者でない私は税金が使われることへの感謝しか出来なかったからだと思います。真光寺橋が建て直された後、私は真光寺橋が「在ること」に感謝し、橋を渡ろうと思います。そして納税者になった時、この感謝を「喜び」に変えるため納税をしっかりと行います。